

「450年の歴史がある」と正光さん。



出番前の道祖神様



歩いて会って何でも話す  
ワクワクの突撃取材

# あつてグッド<sup>26</sup>

市民の皆さんが  
たくさん登場

☆今回訪ねたのは  
「長木地区新沢町内」

H19.7.12・14取材



## 樹

海ラインを小坂方向へ向かうと、拡幅されたばかりの新沢踏み切りを通ります。踏み切りを越えてすぐの左手、墓地の手前に「ほこら」があります。そして、町内を過ぎた所にも、やはり左手に「ほこら」があります。それぞれの中には、新沢町内を守る男女一対の道祖神様がいます。入り口と出口にいて、町内の安全を見守ってくれているのだそうです。

## 今

回のあつてグッドは、その新沢町内の珍しいお祭りの様子をお届けします。このお祭りは、先ほどの道祖神様と、ワラで作った鹿嶋様が町内を練り歩くもの。今年のお祭りは、7月14日。毎年、旧暦の6月1日に当たる日に行つのだそうです。準備は、お祭りの前々日から始まります。町内会長の**阿部正光さん**(新沢)にお話を伺いました。「ウチの神様は、一刀彫りでできているので、とっても珍しいんだ。以前、研究や展示のために貸して欲しいとまで言われたんだけど、町内の守り神だから、断った。何でも、450年の歴史があると聞いている」。エッ、450年も!? それはスゴイ。

## 一

生懸命に赤褐色の塗料を塗っているのは、**岩根キサさん**(新沢)。不思議がる私に説明してくれました。「これは、営林署なんかで、木に数字を書くとときに使うもの。粉を水に溶かして塗ってるの」。粉の袋には「七草光明」と書かれています。おっと、結構しびきが飛んできますけど…。早々と退散。毎年塗り直しているそうですが、間違いなく手や顔に飛んできます。塗りの係の方々、漂白剤で、ちゃんときれいな手に戻りましたか?

## 会

館の中では、鹿嶋様作りをしています。ワラで鹿嶋様を作っているのは、**阿部清明さん**(新沢)。30代から作ってる。交代で当番を決めて作ってるから、毎年作るわけじゃないけど、自分達が当番のときは、このワラ人形を俺が作ってる」失礼ながら、お年は? 「70を越えたよ」といっことは、足掛け40年ぐらいいですか。道理で手早く格好良くできるんですね。「昔は、楽しみも少なかったから、このお祭りも大層騒がしいもので、にぎやかだったよ」。今は、楽しいことがたくさんありますもんね。

足掛け40年の清明さん



道祖神様の「お色直し」



一生懸命に塗っていたキサさん